

平和への思いを未来へつなぐ



今から79年前、広島と長崎に原子爆弾が投下され、日本は世界で唯一の核兵器による被爆国となりました。十数万人の尊い命が一瞬のうちに失われ、今なお原子爆弾の後遺症に苦しむ人々がいます。

町では、平成18年9月6日に「非核平和都市」を宣言し、このような悲惨な経験を二度と繰り返すことのないよう、また、風化させることなく、平和の尊さを次の世代に引き継ぐため、毎年、中学生の代表生徒を広島に派遣し平和研修を行っています。

今年も7月29日(月)から31日(水)に長泉中4人、北中4人の生徒を広島に派遣しました。

研修では、ピースボランティアの解説による平和記念公園内の見学、被爆体験講話、原爆ドームや袋町小学校平和資料館、平和記念資料館などの見学を行いました。

この研修を通し、生徒たちは何を学び、感じたのでしょうか。



健康公園

▶平成29年に非核平和都市宣言10周年を記念して植樹した「被爆アオギリ二世」



▲被爆体験講話



▲平和記念資料館の見学



▲ピースボランティアによる平和記念公園内での解説

受け継いでいく広島記憶

長泉中 高草 航太

「戦争と平和について学び、考え、それぞれの立場で自分にできることから始めましょう。」

これは、今回の広島研修でお話を伺った被爆者の山瀬潤子さんの言葉です。それを受け、私は自分の周りから、少しでも平和に近づけるように、相手の意見も尊重する心を持ちながら、人と接していきたいと思っています。そして、広島研修を通して得た学びや考えをより深め、一人でも多くの人に伝えていきたいと強く思います。

私が初めて広島街に着いたとき、緑がたくさんあり、とても栄えており、「本当にここに原子爆弾が落ちたのか?」と思ってしまうほどでした。しかし、平和記念公園や資料館、原爆ドームなどを見学し、いろいろな話を聞いていくうちに、その考えが変わりました。「目に見える傷」は、戦後の復興策で取り戻されたように感じられます。しかし、広島の人々は、今でもまだたくさんの「見えない傷」を身体や心に負いつけているのです。

資料館では、原子爆弾の被害や影響に苦しんでいる人々の写真や



絵、衣服や遺品など、目をそらし

たくなるような展示や、破壊された建物の写真や残骸といった、原子爆弾の威力を物語っているものがたくさんあり、原子爆弾により引き起こされた残酷な状況がよく分かりました。中でも、ケロイドに悩まされている人の写真や、ショックで気持ちが不安定になってしまった女の人の絵、被爆者のものと思われる影が焼き付いた階段などは、とても衝撃的でした。また、爆心地から2・3キロメートル離れた場所にいた被爆者の方のお話では、原子爆弾が落とされたとき、みんながみんな、自分の家に爆弾が落とされたと思ったくらいの衝撃だったことや、目の前でたくさんの負傷者が見たことなどを聞き、生々しい状況がとても伝わってきました。この研修で知った原子爆弾の被害

というものは、想像よりももっと上をいく考えたくなるようなものでした。また、現在も放射線の影響や、原子爆弾のトラウマなどにより、まだまだたくさん苦しんでいる方々がいらっしやいます。

現在、ロシアが核兵器を使う可能性があることを表明しています。現代の原子爆弾は、広島に落とされたものより威力が大きくなっているそうです。広島に落とされてしまったときも、あれほど多くの人が亡くなり、今もなお苦しめられているのに、それ以上のものが落とされるとなるととても恐ろしく感じます。今、私たち人類は同じ過ちを繰り返さないようにしなければならぬと思います。そのためには、やはり多くの人に、この原子爆弾が落とされた広島記憶を伝えなければならぬと強く思います。

今を生きる私たちは、山瀬さんの言葉を忘れずに、いろいろな人と平和や戦争について話し合い、平和な世界を追求していくために考え続けていくことが大切だと思います。

※他の生徒の感想文は町ホームページをご覧ください。



▲全文はこちら